

特集

輸血のひけつ

輸血療法は、出血性病態を伴う急性期疾患に対する基本的、かつきわめて重要な治療手段であり、適切に実施されることで患者予後の改善に大きく寄与し得ます。その輸血療法に関して、とくに救急医療の観点から最前線を深く学ぼうというのが、今号の特集「輸血のひけつ」です。

本特集では、①輸血療法に関する最新のエビデンス、②輸血に関する研究・取り組みの最前線、③輸血の運用・実施体制の実際、④輸血の安全・安心に関する諸問題、という4つのパートに大きく分けて、輸血に関する多角的かつ実践的な知見をお届けします。

上記①および②のパートでは、各種出血性病態に対する輸血療法の最新のエビデンス・ガイドライン推奨などの解説に加えて、輸血戦略に関する最新の研究などを取り上げました。次に③のパートでは、各地域・施設・環境での輸血の実践の紹介を通じて、医療先進国である日本国内でも輸血の運用体制や実施方法には少なからず施設間での差異がある現状を明らかにします。そして④のパートは、安全で安心な輸血を実施するために無視できない問題として、血液製剤の共有事情と合併症対策に関して解説いただきました。

いずれのパートでも、輸血療法の研究・実践をリードするエキスパートの先生方に、専門的で示唆に富む知見をご教示いただきました。最新のエビデンスを踏まえつつ、日々の臨床にも役立つ「ひけつ」が詰まった一冊となっています。

特集企画エディター

防衛医科大学校防衛医学研究センター外傷研究部門

青 木 誠